

各地域対策会議における小規模集落対策の状況

対策の型	隣接地区との協働・集落関係者による応援隊結成	中山間地域等直接支払制度を受ける近隣集落が出張支援	商工会の行う宅配事業を拡大して買い物支援
集落名	諸田地区 (旧安岐町)	奥江地区 (旧湯布院町)	山部地区 (旧本匠村)
市町村名	国東市	由布市	佐伯市
世帯数	41	18	27
人口	88	43	49
高齢化率	55.6	65.12	81.63
集落の基礎情報	集落の特徴・活用可能な資源 ・歴史のある「御田植え祭」が存続している ・「御田植え祭」伝承館がある ・歴史を語れる遺跡や史跡がある ・あさぎり農産加工グループの活動(隣接地区)	集落の特徴・活用可能な資源 ・市役所まで約13キロ、市のコミュニティバスの運行(週2回)あり。 ・奥湯の郷(温泉施設)、天然自然(景観、温泉)、炭焼き小屋等の資源あり。 ・「奥江の森を元気にする会」が里山再生の活動を行っている。	集落の特徴・活用可能な資源 ・清流番匠川の水源地域の、椎茸・茶・稲作を中心とした9つの小集落からなる。急峻な山に囲まれ、本匠中心部からの道路も狭小。 集落対策に活用可能な地域資源 ～ ①清流番匠川の水源地域に近く、石炭層から湧き出る湧水には、大分市方面からの水汲み客がある。②27世帯のうち9世帯が零細ながら椎茸の原木栽培を継続している。③集落の上部には、市有の茶畑があり農業公社が栽培している。
	集落の抱える課題 ・祭り参加者の高齢化と子どもがいない ・共同作業の人手不足 ・農地耕作者の不足 ・交通の不便	集落の抱える課題 ・生活道路や用水路の維持管理 ・鳥獣被害 ・消防防災体制の整備	集落の抱える課題 ・有害鳥獣被害 ・道路・飲料水施設等の維持管理 ・交通手段の確保 ・県道の整備 ・食料品・日用品の購入 ・携帯電話の不感
検討及び協議中の対策案	○活性化に向けて「諸田地区活性化協議会」を設置し、活動内容は活性化協議会及び各既存組織が活動テーマ毎に進める。実施においては、隣接区である朝来地区住民や出身者及びその推薦者その他希望者から組織する「諸田地区応援隊」が協働し、区の共同作業や祭り要員として参加してもらう。 また、参加の際には地区の特産品を提供し、定期的に応援隊メンバーに対して販売を行い、地域活性につなげる。	○小規模集落支援モデル事業の実施 同一校区内で中山間地域等直接支払制度に取り組んでいる下津々良集落からの支援を受け、用水路、農道の保全管理活動を実施する。 (H20.9.4両集落及び県・市により協議会設立)	○宅配事業の拡大 ～ 番匠商工会が今年8月から実施 県「地域商業維持支援事業」 これまで宇目地区で行っていたのを本匠地区へ拡大 ・高齢者等の食料品、日用品等の購入を本匠地区加盟店と連携して支援 ・商工会本匠支所に宅配員を設置、会員からの依頼により商品宅配。 ・独居高齢者など訪問によるご用聞きによる見守りサービスも提供。 ・9月末現在、山部地区会員16世帯
	<p>○地域の再発見の取組として「諸田地区史」を作成し、史跡・遺跡・景観等を結んだ地区散策コースをPRする。</p>	<p>今後集落と実施を協議する取り組み(集落代表者等との協議段階)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○奥湯の郷の来客に対する地元農林産品の販売、自然や温泉資源を活かした宿泊等の交流促進による所得確保などを通じた、草刈り等の課題解決 ○消防団応援隊結成による初期消火体制の整備 	<p>年会費1000円</p> <p>○都市部の住民との交流 ～ 実績のあるNPOが橋渡し ・集落の人手不足による集落機能低下に対する「応援隊」の派遣 ・集落の活性化に向けた取組に対する橋渡し、事業支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 人材の提供 ・NPO会員の労働力 集落活性化の取り組み支援 ・都市部住民との交流事業 組織の立ち上げを援助 ・研修事業
他の不安解消策	○高齢者独居世帯、高齢者世帯の安心生活のサポート見守りシステムの普及促進	○社会福祉協議会、商工会等と連携した地域見守り活動。 ○鳥獣害対策アドバイザーによる指導。 ○由布コミュニティ地域の底力再生事業(由布市)や地域振興アドバイザー派遣事業(国交省)を活用し、地域活性化の方途を多面的に検討する。	○鳥獣被害アドバイザーの派遣 (南部振興局) ○有害鳥獣広域一斉駆除～9月～10月:佐伯広域森林組合からの寄付金を財源(佐伯市) (シカ1頭 駆除報償金 8,000円→10,000円) ○県道三重弥生線の離合所等の整備促進(佐伯土木事務所) ○コミュニティバスの21年度からの運行に向けた協議(佐伯市)

対策の型	地区住民の安全・安心確保対策（災害対策）				集落出身者による応援隊結成				地域資源を活用した生きがづくり				新たな地域コミュニティ組織の育成			
集落名	上畑地区（旧緒方町）				旧丸蔵小学校区（旧中津江村）				小柿山地区（旧耶馬溪町）				南院内地区（旧院内町）			
	世帯数	人口	高齢化率	72.4	世帯数	人口	高齢化率	57.9	世帯数	人口	高齢化率	63.2	世帯数	人口	高齢化率	42.8
集落の基礎情報	集落の特徴・活用可能な資源 ・災害時に孤立する可能性がある地域 ・集落営農組織結成し、中山間地域直接支払受給 ・伝統芸能の保存会の活動が活発 ・廃校利用による地区公民館あり				集落の特徴・活用可能な資源 ・さくら会（婦人会）や丸蔵親和会（青年）などの活動団体がある。 ・他出子の集落への思いが強く、夏祭り等で帰省しての交流がある。				集落の特徴・活用可能な資源 ・光円寺しだれ桜（シーズン中に2,000人來訪） ・一目八景から伸びる景観 ・女性グループ「桜グループ」				集落の特徴・活用可能な資源 ・余谷地区21世紀委員会、余谷地区コミュニティ活動推進協議会が、地域間交流や公民館活動等で先進的な取組を実施している。 ・南院内小学校、コミュニティセンターを拠点として、ふれあい運動会等の地域活動に取り組んでいる。			
	集落の抱える課題 ・地区内の県道の整備 ・災害（風水害）時などの対応 ・高齢者世帯の見守り				集落の抱える課題 ・生活道路や農道等の維持管理 ・交通手段の確保 ・地域催事や伝統行事の継続 ・耕作放棄地や鳥獣被害				集落の抱える課題 ・冬季の道路凍結 ・携帯電話の不通 ・近隣養豚場からのハエ発生				集落の抱える課題 ・鳥獣被害 ・耕作放棄地の増大 ・生活道路等の維持管理			
検討及び協議中の対策案	○地区住民の安全・安心確保対策（災害対策） ○地区内外と連携した高齢者等対策				ふるさととの絆による丸蔵地区交流・支援事業（案） ～離れていてもわがふるさと～ ○丸蔵地区出身者による「ふるさと応援団」の結成とふるさとへの支援 ○さくら会、丸蔵地区親和会を中心とした「ふるさと見守り隊」が集落機能維持・見守り活動 ○「ふるさと見守り隊」「ふるさと応援団」連携による交流事業等の推進				1 「光円寺のしだれ桜」を活用した地域活性化事業 新たな土産品を開発・製造し、桜のシーズンを中心として販売することで、生産活動の主力となる「桜グループ」メンバー等の生きがづくりと集落の活性化を図る。				○新コミュニティ形成推進事業 小規模集落等の抱える課題を解決するため、地理的、歴史的、文化的な条件を同じくするような住民的結びつきが強い単位である小学校区単位で新たなコミュニティ組織を形成し将来を見通した「まちづくり実践プラン」を作成して住民相互が支え合う仕組みを構築し、行政（市）と協働で取り組むモデル地区をつくる。			
他の不安解消策	・旧町当時から町社協が実施している高齢者等世帯への見守り訪問活動がある。 ・対象集落を含む隣接集落の自治会及び団体等で協議会を組織し、祭りなどに取り組んでおり、神社も共有している。 ・市内全域で小規模な自治会の合併など自治会再編が進められている。				※丸蔵地区出身者へのアンケート調査結果概要 ・地区の集落機能等の維持のために協力したいか 協力したい・・・98% 協力したくない・・・2% ・どのような協力が可能か ①産品・観光の紹介 ②経済的支援 ③特産品購入 ・実家や地区に対する心配ごと ①両親等の急病や災害時対応 ②両親等の食生活・健康管理				2 小柿山応援団の結成及び支援 他出子（集落外に居住する子）や集落を離れた地縁者の組織化により、地域外から出身集落を応援する体制を構築する。				・14年ぶりに南院内小学校羽馬礼分校を復校 ・農産物出荷調整施設及び農産物直売所「まごころマーケット あり谷」の開設を支援（地域活動支援事業） ・11月の「なんぶん市」（南院内校区の収穫祭）の開催を支援予定（合併地域緊急支援事業）			